



落葉と木の実のごちそう「きつと食べに来るよ」タヌキのわなだとか

「たからのもり」の木々は木の実も葉もすっかり落として冬支度。残った柿の実を鳥たちがついばんでいます。シジュウカラやジョウビタキかしら。

子供たちにとってはステキなあそび場で、毎日のように「たからのもりのオニごっこ」が始まります。たくさんの木にぶつからないように走ることで身のこなしが俊敏になってきたようです。つかれた時は木のかげに身を隠して息をひそめるなど、作戦もいろいろあるようです。起伏のある場所だからだを存分に動かして遊ぶ。そう、子供は風の子

風の子便り



KAZENOKO DAYORI

滋賀大学教育学部附属幼稚園

全国学校園庭ビオトープコンクール2025 日本生態系協会会長賞受賞に続き

ソニー教育財団「科学する心を育む」保育実践論文 優秀園受賞!



日本生態系協会会長賞とは

全国学校園庭ビオトープコンクールにおける最優秀賞にあたる上位5賞のうちの一つです。

◎**文部科学大臣賞**は、「特に体験活動や学習活動の内容、成果が秀でている学校・園」が受賞。

◎**環境大臣賞**は「特に野生の生き物の住むビオトープの質が秀でている学校・園」が受賞。

◎**国土交通大臣賞、ドイツ大使館賞**もあります。

日本生態系協会会長賞については、「特に地域とのパートナーシップの観点で秀でている学校・園」が受賞します。本園では子供を中心に保護者と共に作りあげた過程、「びわ湖産の土」を取り入れた滋賀県ならではの取組のほか、保護者の皆様がビオトープへの関心を高くもち、子供たちの探究心の発揮を支えてきたエピソードなどを高く評価いただきました。造成からこれまでを見守ってくださった皆様に感謝いたします。

「科学する心を育む」とは

～豊かな感性と創造性の芽生えを育む～ことを主題とし、子供たちが自ら人や自然、もの、出来事と様々にかかわるくらしの中で、豊かな感性が生まれ、主体的に遊ぶ楽しさ、学ぶ楽しさを味わう体験を通して創造性の芽生えが育まれる保育を実践することを主旨とされています。

これはまさに、滋賀大学教育学部附属幼稚園の教育を表しているのではないかと思います。本園では昨年度までの事例（特にビオトープに関するもの）を抽出して、「科学する心を育む」論文としてまとめ直したものを応募しました。

本論文においての「強み」も、保護者の皆様の子供たちの育ちに向き合うやさしくあたたかい関わりだったように思います。「**保護者の皆様は子の鏡、園の宝**」今後もよろしくお願ひします。





～副園長のおしゃべり～

ソニー教育財団の論文に応募すると、選考委員の先生方から講評をいただくことができます。実はこれをけっこう楽しみにしているのです。今回の講評をかいつまんで紹介させていただきます。

- ・地域の土や植物を活用しながら幼児・保護者・職員・地域の方と作り上げたビオトープのよさ
- ・流行にとどまらずに持続的なとりくみであること、幼児が自然に触れることをコンセプトにした研究
- ・「死んだカエル」の場面では子供たちの意をくみ、見守ることから「死んだ命もなにかの命につながる」という感覚を自然に得ていた点は、ビオトープならではの学びであり命へのまなざしが育まれている
- ・エピソードは偶然の産物でもあるかもしれないが保育計画が明確で子供にもわかるように伝えている点は保育の透明性と子供との信頼感を築く上でも非常に意義深い というようなことが評価されました。

論文はこちら→ https://www.sony-ef.or.jp/program/result/pdf/2025_pre_b_shigau.pdf ぜひ！

季節のアルバム



お正月カルタ大会。手を膝に置き、先生の読む声を静かに待つ。動物カルタは絵でとることも字でとることもできて4歳児にピッタリ！

3歳児緊迫のカルタ。絵がシンプルでよい。自分の前に何枚か並べてとれるようにしてみたものの灯台下暗し。カルタは置がいいですね。

園庭でいろいろな運動遊びにトライする5歳児。まりつき、縄跳び、フープなど。転がしたフープをぐりぬけるという技を考えただけで難しい！



ビオトープはおそらくようちえんで一番寒いところにあるので氷も張りやすい。冷たい氷をいっぱい集めて、色を混ぜてかき氷屋さんスタート。

ひと月遅れの大掃除でしょうか。きっとお家でもいっぱいお手伝いをしたのでしょう。みんなのために自分ができることをする。そんな喜び。

さあ！コマ回しがはじまった！できるようになった子が少しずつ増えてみんなで切磋琢磨。股のぞき投げ、助走して投げる。いろいろな工夫。

身体測定でのこと。Aさんがとても上手に衣服をたたんでいました。「上手にたためるんだね」と先生が声をかけると、

「うん、いつも家で教えてもらっているから」と、嬉しそうにこたえました。

Bさんも上手に衣服をたたんでいたので、同じように「上手にたためるんだね」と先生が声をかけました。

「だって、家でたたみなさいっていつも言うられるんだもん」と、渋い顔でこたえました。

同じことができる二人ですが、その過程はかなり違うようです。

「してもらっ嬉しさ」から「自分でできる嬉しさ」へ コーチングというカティーチングというか、思いめぐらせた二人の言葉でした。

さて、冬休み、子供たちの成長を感じたこと、ありましたか？

